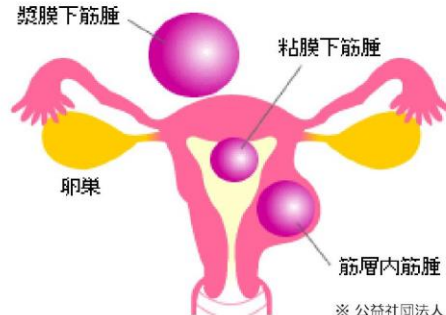


👉【症状】生理時の出血が多い・生理痛がひどい・下腹部、腰が重い感じがするなど、

子宮筋腫を疑います。子宮筋腫とは、子宮を形作っている筋組織（平滑筋）から発生する良性の腫瘍です。40歳代にもっとも多くみられますが、35歳以上の女性の5人に1人には大なり小なり筋腫があるといわれています。通常は閉経とともに縮小していきませんが、大きくなると月経時痛、月経時の大量出血、腹部膨満、頻尿、便秘といった症状が出現します。無症状であれば治療の必要はありませんが、症状が強い方は治療が必要となります。

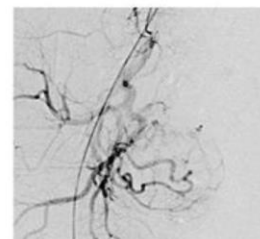
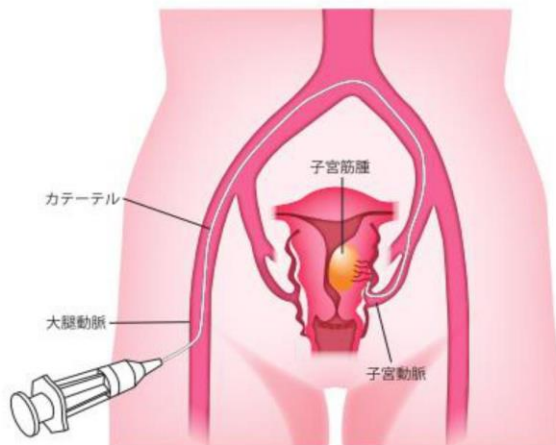


●治療について● - 切らずに治すUAE（子宮動脈塞栓術） -

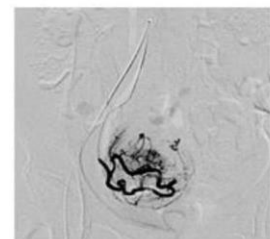
症状のある子宮筋腫に対する治療法としては、薬物療法や手術療法がありますが、改善しないもしくは手術を希望されない患者さんに対して**子宮動脈塞栓術（UAE）**を行っています。

■子宮動脈塞栓術（UAE）の実際■

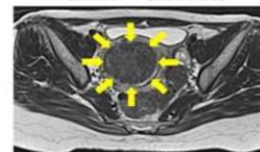
子宮筋腫に栄養を与えている子宮動脈の血流を止めることによって、筋腫を縮小させ、筋腫によって生じる過多月経などの症状を改善する治療法です。足のつけ根に局所麻酔を行い、足のつけ根の動脈にカテーテルを入れ筋腫近くまで進めます。カテーテルから塞栓（そくせん）物質を注入し、血流を遮断します。塞栓が完了したらカテーテルを抜き、傷口を押さえて止血します。いわゆる筋腫に対する「兵糧攻め」です。



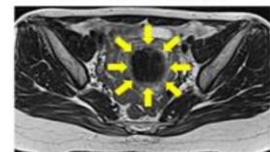
血管造影（塞栓前）



血管造影（塞栓後）



塞栓前MRI画像



塞栓後MRI画像

（文責： 内藤 晃）

IVR（アイ・ブイ・アール）をご存じでしょうか？

さまざまな医療場面で活躍の場を広げている治療法で、正確には「Interventional Radiology：インターベンショナルラジオロジー」、日本語では「画像下治療」と訳し、X線透視、CT、超音波、血管造影装置など放射線診断装置を用いて行う検査・治療のことです。穿刺針やカテーテルを用いて、主に局所麻酔下に行い、外科的手術の様にお腹や胸を切らずに体の奥にある臓器や血管の治療を行います。IVRには血管系の手技のみならず、非血管系（体表から病変部に対し専用の針やカテーテルを直接進め、病変の治療を行なう）の手技も含まれます。